

平成26年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、基本的人権を尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる人間力を育成する教育を推進する。
- ③ 社会の一員としての役割を果たし、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立していくために必要な能力や態度を育てるキャリア教育を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 職業人として必要とされる資質や態度を身につけた人材を育成し、個々の進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② 豊かな人間性と高い人権意識を身につけ、他者を思いやる心と自尊感情を育む。 [人間力の向上]
- ③ 専門分野に関する確かな技術及び技能の定着を図り、ものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成する。 [実践力の育成]
- ④ 地域の活性化や地域産業を担う人材の育成と地域との連携を深め、地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。 [地域との交流]

3 重点目標と計画

| | | 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題 今後の改善方向 |
|--------|-----------------------|--|--|--|----|---|--|
| 中期目標 | 重点目標 | 目標達成のための計画 | 評価指標・活動計画 | 具体的な取組・評価の根拠 | 評価 | 学校関係者の意見 | |
| 学校力の向上 | ① 基礎学力の定着を図り、学力向上を図る。 | 出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。 | 年間の授業実施時数を1単位につき35時間の80%以上確保することを目標にする。 | 授業実施率 87.8% | A | 授業実施率が高く努力されていると思う。学力向上に取り組んでほしい。 | 学校行事の精選等により授業時間数の確保に努めていきたい。 |
| | | 各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施することにより、わかりやすい授業へ改善を進める。 | 生徒アンケートにより、「授業がわかりやすい」とする生徒の割合60%以上とする。 | 授業評価アンケート結果の平均は4.1 平均4.1は良かったものの授業の理解度を尋ねる質問では3.9と4.0を下回った。 | B | わかりやすい授業をぜひ進めてください。 基礎学力の不足のまま、工業に来ている生徒もいる状況なので生徒の力を伸ばして、工業で働く一人前の社会人に育っていくように、基礎学力の向上や学び直しの支援とキャリア教育を充実させてほしい。 | 理解するというところで気持ちの充実も高まり、学校生活のみならず他のことがらにもいい影響が生まれことが期待されるために理解度を高めていきたい。 |
| | | 実力テストを実施する。1, 2年生：国数英, 3年生：国数英一般常識, SPI作文を全学年とも年間3回実施する。 | 実力テストと進路実現との関連についてアンケートを実施する。 | 今年度の調査結果(3年生のみ)より、A評価基準(70%以上)と同じ70%が役立つと回答した。 | A | 基礎学力の不足のまま、工業に来ている生徒もいる状況なので生徒の力を伸ばして、工業で働く一人前の社会人に育っていくように、基礎学力の向上や学び直しの支援とキャリア教育を充実させてほしい。 | 実力テスト内容の精選を行う。 |
| | | 基礎学力向上週間を年間5回実施する。 | 基礎学力向上週間についてアンケートを実施する。 | 今年度の調査結果より69%が役立つと回答した。 | B | 基礎学力の不足のまま、工業に来ている生徒もいる状況なので生徒の力を伸ばして、工業で働く一人前の社会人に育っていくように、基礎学力の向上や学び直しの支援とキャリア教育を充実させてほしい。 | 基礎学力向上週間の実施の定着化を目指す。 |
| | | ものづくり HR 活動を各学年で1回以上実施し、手先の器用さや忍耐力の向上を図る。 | ものづくり HR 活動についてアンケートを実施する。 | 今年度の調査結果(3年生のみ)より75%が役立つと回答した。 | A | 基礎学力の不足のまま、工業に来ている生徒もいる状況なので生徒の力を伸ばして、工業で働く一人前の社会人に育っていくように、基礎学力の向上や学び直しの支援とキャリア教育を充実させてほしい。 | ものづくりHRを継続しつつ、内容についての精選を行う。 |
| | | 教科・科目の特性に応じて、基礎基本的な知識と技能の習得させ、思考力・判断力・表現する力を育み、言語活動の充実を図る。 | 楽しい授業・わかる授業を目指して授業の工夫・改善を進める。教員の相互授業参観・生徒による授業評価などを通して教員間の生徒 | 基礎学力向上週間にあわせて教員の相互授業参観を行った。国語科では、3年生は国語の授業や進路指導を通して作文を書く機会が多く設けることがで | B | 国語の作文などの指導は必要なことで進めてほしい。読む力や書く力(表現力) | 1, 2年生の作文を書く機会を増やす。自ら体験し、感じ、考えたことを作文にまとめるなど、的確な言葉で表現する学習活動を通して、生活言語を増やしていく。作 |

| | | | | | | |
|-------------------------|--|---|---|---|--|---|
| | | 理解を深め、理解やスキルの共有化に取り組む。 | きた。作文や応募作品の提出率は95%であった。 | | を育てることを全ての授業で取り組んでほしい。 | 文やコンクール応募作品の課題を出し、提出率100%を目指す。 |
| ② 進路を支援するリア教育 | キャリア教育の充実を図り進路実現に向けて取り組む。キャリア教育で身につけさせたい4つの能力・態度を育む。 ①「かかわる力」(人間関係形成・社会形成能力)②「みつめる力」(自己理解・自己管理能力)③「すすむ力」(課題対応能力)④「えがく力」(キャリアプランニング能力) | 面談・キャリアガイダンスなどを通して、一人一人の状況に応じたサポート・支援を行う。 実習や授業を通して、社会人としての資質を育てる。また、具体的な資格取得に向けた補習・支援を行う。 | 就職1次合格率 96% (94名中90名合格) 進学合格率 100% 2年生では、3年生と同様の進路指導を模擬的に実施し、1年後の進路決定に向けての意識高揚を図った。 今年度、徳島県中小企業家同友会の協力を得て、社長塾を実施した。 | A | 就職の取組がとても良かったと思う。希望した第一回目の就職試験で全員が合格できるように来年度も是非努力してほしい。生徒も多いので、高校に入学してから数学教育で自信とつけて得意になるよう力を入れてほしい。 | 今年度同様の取り組みを進める。就職一次合格率95%を目指す。進学合格率90%を目指す。社長塾を継続して実施する。 |
| 進路情報収集・提供と進路選択の支援及び内定向上 | 3年担任、科長、進路指導課員が、最新の進路に関する情報を収集し、生徒に適切な情報の提供に努める。 | 生徒の希望する企業等を訪問し、適切な資料や情報を収集する。 | 県外のべ40社、県内数十社に向き求人計画、入社試験概要などの聞き取り調査を行い、生徒に有意義な資料を提供できた。 | B | 景気の善し悪しで就職状況も変わるが、どんなときにも合格できるようになってほしい。小中の算数・数学ができるようにまじ支援してほしい。 | 県内企業の訪問先についての検討を年度当初に入念に行い、適切な企業訪問を実施する。 |
| | 生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。 採用実績を考慮に入れた進路選択による内定率の向上を図る。 | 進路説明会や進路講演会実施による進路選択のサポート・支援を行う。 三者面談・応募前職場見学・進路先資料の公開を通しての進路選択の支援。生徒アンケートによる評価を行う。 | 受験企業64社中55社が応募前企業見学が可能であり、その内およそ9割の50社の応募前見学に参加した。昨年度は9割であった。一次募集の内定率が96%(90/94)であり、素晴らしい成果であった。昨年度は81%、一昨年度は82%であった。 | A | 更新回数が増え良かったと思う。次々と新しい情報が更新されていると興味を持てる。修学旅行でリアルタイムで更新したのは親として安心で良い。 | 本当の意味での応募前企業見学(面談で決定する前の見学)が実施できる環境作りの検討を行う。進路説明会への保護者の参加率を向上させる方法の検討を行う。 |
| ③ 積極的な活動を推進する。 | ホームページの内容を充実させ、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。 | 毎月20回程度ホームページを更新できるよう各課等に働きかける | 月平均10回程度更新した。 | B | | 引き続き更新回数を維持する。 |
| | 本校の教育内容や教育活動について、中学校に対し説明し広報に努める。 | 訪問校を前年度より増やす。 | 中学校への訪問回数のべ28回。7.7%増加(H25年度との比較) | A | 中学校に訪問して連携を取ることには続けてほしい。 | 訪問回数としては本年度並みに重ねていきたい。さらに本校のPR活動として内容を充実させたい。 |
| ④ 学校 | 中学生とその保護者を対象と | 参加者を前年度より増や | 参加者 116名で昨年より増加。 | A | ケーブルテレビ | 体験入学時にいい印象を持ち帰っ |

| | | | | | | |
|----------------------|---|--|---|---|---|--|
| 開放を推進する。 | する体験入学の内容を充実させる。 | す。 | 大変良かった（67人）良かった（47人） | | で時々阿南工業の様子を見るとよく分かる。学校に寄せてもらい、生徒を見学させてもらうと学校のことがよく分かる。挨拶も良いし、雰囲気学校だと思う。 | てもらいたい。本校の施設をフル活用して、本校ならではの体験をしてもらいたい。 |
| | ”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。 | 参加者を前年度より増やす。 | 参加者204名（今年度） 参加者149名（H25年度） 36.9%増加。特別活動課の文化祭受付名簿による。 | A | | 文化祭とも連動するなかで、本校の教育施設などを見学して頂き、ものづくりに関心を持ってもらう第一歩になるようにしたい。 |
| | P T A活動のすべてをタイムリーに広報する。また、P T A総会、各種研修会などへの参加人数を昨年度以上に増やす。 | 文書案内だけでなく、学校ホームページで活動の案内を積極的に行う。また、P T A活動を活性化させ保護者が気軽 | 各役員会・研修会・阿工祭など多くの役員の方の参加を得ることが出来た。気軽に学校に来校出来るようには残念ながら出来なかったように思う。 | B | 保護者との連携を充分とるよう今後も進めてほしい。 | 保護者が気軽に来校できる、来校したくなるような魅力的なP T A活動を展開し、P T A総会、各種研修会等の保護者参加人数を増加させ、P T A活動を活性化させる。 |
| ⑤ 校内教職員研修の充実を図る。 | 各課と連携し校内研修の充実を図り、授業力向上のための校内研修を実施する。教員のスキルアップを図り、公開授業を実施する。 | 昨年度以上の研修を実施する。 | 昨年度並みの校内研修の実施であった。学力向上習慣に合わせて、授業の相互参観を実施した。 | B | 点数を上げるだけでなく、人として育ててほしい。 | ものづくり力の向上をめざし、テクノスクールや地域企業と連携した校内研修の充実に取り組む。 |
| ⑥ 図書館の利用者数と貸出冊数を増やす。 | 図書館便りを定期的に発行し、新入生にはオリエンテーションを実施する。 | 来館者を増やす。 生徒1人あたりの貸し出し冊数を増やす。 | 昨年度来館者5509人（1月末） 今年度来館者5173人（1月末） 昨年度1人平均11.2冊/人 今年度1人平均11.8冊/人 県内高校平均冊数約5冊/人 | B | 図書の利用が多いのは良いと思う。生徒の居場所作りでもあり、充実させてほしい。 | 来館者数に関する評価指標の値を全校生徒数に対する目標数値に設定し直す。 生徒1人あたりの来館回数 15回≤A, 12≤B, 12>C 生徒1人あたりの貸出冊数 5冊≤A, 3冊≤B, 3冊>C |
| ⑦ 情報セキュリティ対策の推進。 | 情報セキュリティポリシーに関する知識の啓蒙を行う。 | 職員会議・職朝を積極的に活用し注意喚起し、セキュリティに対する意識の向上を図る。 | 4回実施 | B | | 啓蒙回数の増加を図りたい。 |
| ⑧ 事業の実施による活性化を図る。 | スーパーオンリーワン事業や産学官連携事業等による人材の育成を図る。 | 事業の実施により、創造力と実践力が身についたか、アンケート結果により60%程度の満足度を得る。 | 産学官連携事業やコンソーシアム事業など地域企業と連携して事業展開をすることができ、生徒評価で満足度80%以上を得た。 | A | | 産学官連携・インターンシップ・社長塾・知財権事業などを展開し、実践的な力の養成を図る。 |
| ⑨ 部活動の活性化を図る。 | 全員加入を目標とする活気ある部活動を実施する。 | 昨年度実績(%)以上の入部率が向上するよう指導する。 | 昨年並みの92%の入部率であった。学年別では1年生の入部率が昨年をやや上回る結果となった。 | B | 部活動の充実と活躍は素晴らしいと思う。校内に部活動の活動状況や写真などを掲示している | 昨年同様入部はしているものの、活動ができていない生徒が多い。そこには顧問の活動参加が影響しており、強制できない部分もあるが活発になるよう指導していく。 |

| | | | | | | | |
|-----------------|-----------------------------------|--|---|--|---|--|--|
| | | | | | のはとても良い。ホッケー、バレーや剣道は、今後もさらに活躍してほしい。運動部の活動も活発になって来ているのがうれしい。応援したい。 | 今まで顕著な競技実績が残っていなかった部活動でも、地道な活動の中から徐々に成果を出している。今後もそのような活動ができれば指導していきたい。 | |
| | | 競技力の向上を旨とする。 | 前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。 | 運動部に比べ文化部の活動が低調になっていく中、写真部の活動が活発になっており多くのコンクールに出展している。 | B | | |
| | | 生徒会活動の充実。生徒が自主的に活動できる生徒会の育成 | 中央委員会の活動を活発にするよう年3回は計画する。 | 8月に行われた高校生リーダー交流集会で南部ブロックの世話係校を担当。生徒会役員が準備を重ね参加校との交流を図った。 | B | 今年度の生徒会会長選挙は立候補者がおらず、中央委員会推薦となった。来年度は生徒会の中心となる人材の育成を図っていきたい。 | |
| | | 充実した学校行事の実施。体育祭、文化祭の充実を図る。 | 文化祭での来校者数が昨年(300人)を上回るように、体育祭で近隣の保育所、幼稚園などと交流を行う。 | 文化祭は昨年を上回る来校者数であった。当日の天気や周辺校の学校行事など来校してもらいやすい状況があったこともある。また、体育祭も幼稚園、保育所の協力もあり交流が続けられている。保護者の来校も多い。 | A | 近年文化祭と地域合同防災訓練をリンクさせて行っているが、生徒や教職員の負担も大きく、別開催することも考えてみてはどうか。また、前日祭(音楽鑑賞)を復活させたが好評であったので来年も継続させていきたい。 | |
| | | 人権教育の活動を進める部活動の「あこう研究会」の活動を充実させる。 | 週2回の校内活動や南部ブロック生と部会、中・高生による人権交流集会等の参加率を90%程度にする。 | 南部ブロック生徒部会、中・高生による人権交流集会のすべての活動に参加することができた。 | A | 生徒の自主性・主体性を高揚させたい。 | |
| 人間の 力の 向上 | ① 基本的 生活の 習慣の 確立を 図る。 | 規則正しい生活に心掛けるよう指導し遅刻をなくす。(遅刻時の声かけ、月遅刻6回以上生徒の特別指導(生徒課長・学年主任・コース長)) | 1日の学校全体の遅刻数を7回以内に作る。(平均) | クラスの1ヶ月遅刻5回以内表彰を行い、目標を持たせた。遅刻生徒には、生活指導などを個別に行った。1学期は1日平均4人程度であったが2学期以降10人程度に増えた。 | C | 点数の向上だけでなく育てることを進めてほしい。 | 家庭との連携を深める。2学期に気を引き締めるための強化月間をもうけるなどの工夫をしたい。 |
| | | 積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。(パワフル週間、学校安全の日) | すべての生徒が挨拶出来る。 | パワフル週間や学校安全の日、又登校時の服装指導等を通して指導にあたった。概ね元気に挨拶が出来た。 | B | 卒業式の様子をケーブルテレビで見たが、天真爛漫で明るく元気な生徒の様子は、とても良い学校だと感じた。 | 今後も継続していきたい。自分から積極的に挨拶できるよう指導を行う。 |
| | | 頭髪・服装を正しくし爽やかに生活する。(全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導) | 頭髪服装検査を月1回を実施し、1週間以内に改善を要する生徒を30人以内にする。 | 毎月の全校朝会で、係り教員を中心に指導を行った。改善を要する生徒の1ヶ月平均人数が55名であった。頭髪については、年度当初以降は月4名程度と改善されたがカラーと校章を付けられていない生徒が多くあった。 | C | 卒業式に出席させていただいたときなど学校に来たときに生徒の様子を見ると、挨拶を良 | 校章・カラーを付ける指導を全教員で徹底したい。頭髪についても、根気強く指導を続けたい。 |

| | | | | | | |
|---------------|---|---|--|---|--|--|
| | 遅刻防止に取り組み、時間を守る事の大切さを再確認し、基本的な生活習慣を身につけさせる。毎月の遅刻回数が5回以内となるよう、家庭との連携を図りながら学年全体として指導する。 | 1学年の年間遅刻回数を240回以内となるよう、各クラスで取り組む。遅刻の多い生徒に対しては、学年としても個別指導を行う。 | 遅刻回数は、1月28日時点で499回であった。 | C | くしくて楽しい学校だと感じる。「工業でなければ学校へ行くようにならなかったと思う。今は、楽しそうに休まず学校に行っている」とうれしそうに保護者が話してくれたのを聞いて、学校はとても良い状態だと思った。 | 遅刻回数は、クラスにより大きくバラツキがあるが、あらゆる機会を通じて、指導する必要がある。 |
| | 生徒の発達段階を考慮して、言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立されるよう指導する。 | 挨拶、授業態度、提出物など学習習慣に関連する課題に取り組み生徒のアンケート結果で判断する。 | 生徒の授業評価から「興味を持って取り組んでいる」が5段階評価で3.8程度である。授業態度の指導など課題もある。 | B | | 必要に応じて家庭との連携をとり、出席状況の改善を図り、家庭学習の習慣を身につけられるように指導する。 |
| ②人権意識の高揚をはかる。 | "あわ"人権学習ハンドブックを活用して「人権を確かめる日」、「人権教育統一ホームルーム活動」の充実を図る。学校の教育活動全体とおして、人権尊重の精神を訴える。 | 生徒の人権学習アンケート等の評価を80%程度にする。 | 人権を確かめる日、人権学習ホームルーム活動で参考資料として5回以上活用した。人権学習のホームルーム活動のアンケート結果で「有意義であった」と回答した生徒は78.2%。 | A | 就職の取組がとても良かったと思う。就職試験で何度も不合格になることは、生徒にとって、自分の全人格を否定されたような感じを受けやすい。事前事後の関わりを通して生徒を支援することが大切だと思う。希望の第一回目の就職試験で全員が合格できるように来年も是非努力してほしい。 | 積極的に活用をはかりたい。人権意識の高揚と問題解決に対する態度や行動をさらに充実させるための指導を計画的に実施する。 |
| | 公正な採用選考のあり方について理解させる。校内面接練習で、「就職差別につながる」とされる14項目について適切に指導する。 | 校内管理職面接で、「就職差別につながる」とされる14項目について適切に指導する。 | 人権学習ホームルーム活動や各科目での就職面接指導の成果もあり、おおむね達成できた。 | B | | 各科目と連携して指導を充実させたい。 |
| | 校内人権教育教職員研修の充実をはかる。学校行事として講演会等の内容を充実させる。 | ホームルーム活動打合せ・教職員研修会を全員参加で年8回以上開催する。人権問題に関する生徒講演会(映画会)を実施する。 | 人権学習ホームルーム活動打合せと校内教職員研修会を合わせて、8回以上実施した。参加率は92.3%であった。人権啓発DVD「ほんとの空」を鑑賞し、外国人、いじめ、原発の風評被害等について考えた。 | A | | 教職員研修会の参加率を向上させるための工夫・改善等が必要である。映画会と講演会の2本立てで計画する。 |
| ③環境教育を推進する。 | 校内美化を徹底する。 | 毎日の清掃の徹底(清掃出席簿を作成する。)月に1回の大掃除教室のワックスがけを年間2回以上。年に2回の全校除草(技師との連携)専門棟は各コースで実施する。 | 清掃に参加出来ていない生徒が各HR若干名いた。教室のワックスがけを本年度は、実施できていない。 | B | 実習等の耐震工事や生徒校舎などの建て替えを進めてください。校内美化に引き続き取り組んでほしい。掃除は人間形成にも大切で、社会人としても、掃 | 全員参加出来るように指導を徹底する。 |
| | 循環型社会形成を推進する。資源ゴミの分別を徹底する。 | 教室等のゴミ資源を6分類する。学期に一度ゴミ袋内 | ゴミの分別は完璧でした。 | A | | ゴミ分別の徹底を継続する。雑誌等のリサイクル活用を図る。 |

| | | | | | | |
|--------------|--------------------------------------|---|---|-------------------------------|--|--|
| | | の分類程度を確認する。 | | | 除がきちんとできることが生活全般にわたって規則正しくするための基本になる。ゴミの分別も、日常生活で大人になれば必要なことなので、引き続き取り組んでほしい。 | |
| | 雑誌資源をリサイクルに出す。 | 月に一度のゴミ資源の集積状況調査をする。雑誌資源の集積場所を確保する。年に1回の雑誌の古紙業者への収集依頼する。 | 集積場調査はできなかった。集積場に雑誌等が混入していた時があった。 | B | | |
| | 省エネルギーへの取り組みをする。 | 電気使用量が前年比で減少させる。水道使用量を前年比で減少させる。 | 電気使用量は昨年並みだった。水道使用料は劇的に減少した。 | B | | 省エネの取り組みを進める。講演会を実施し、地球規模で考え、足下から実行できる人間育成に努める。 |
| | 環境問題講演会を実施する。環境問題標語・ポスターを募集する。 | 3年で環境問題の重点課題が理解されるよう講演内容を検討する。 | 講演会は実施できなかった。全校生徒対象に募集を実施し、提出率は75パーセントだった。 | C | | |
| | 5 R 運動の考えを実習に取り入れ、環境に対する生徒の意識を高める。 | 各科の実情に応じて基準を設定し、達成度を評価する。 Recycle ; 配剤の徹底分別を行う。 Repair ; ものづくり技術を生かして修理を行う。 Reuse ; 不揃いな材料の切れ端は、溶接の練習材として使う。 Reduce ; 材料取りを工夫して廃材を最小限にする。 Refuse ; 工具や材料の管理を徹底し、無駄なものは購入しない。 | 機械科では、材料取りの段階から、無駄を最小限度にするよう指導し、ほとんどの生徒が意識して作業に臨んだ。 電気科では、耐震工事に伴い、実習棟の整理・廃棄物処理を行うことにより環境教育を十分に行うことができた。生徒評価90% 建設科では、生徒のアンケート結果では、B評価となった。評定平均値が3以上 | 機械 A 電気 A 建設 B | 省エネや環境問題についても、これからの社会人として必要なことなので、多様な取り組みを継続して進めてほしい。 工業実習に取り組むことは体験を通して学ぶことで、工業各科で状況の違いはあるようだが、引き続き進めてほしい。 | 機械科では、技能検定用の鋼材の再利用方法を考える。 電気科では、引き続き耐震工事が実施される機会を利用して環境教育を図る。 建設科では、アンケート内容の変更等を含めて検討する。 |
| ④ 安全教育を推進する。 | 防災教育 火災時の初期消火と避難、人員確認と地震時の避難と人員確認 | いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できるよう体制を整備する。避難訓練をより実践に即した方法に改善する。 | 訓練はよく取り組めた。地域合同の防災訓練を実施した。防災ヘリコプターの体験を行った。 | A | 津波対策や南海地震など防災・避難訓練を継続して下さい。 | 継続した取組を進める。 |
| | 交通事故0をめざす。 | 原付等の交通事故をなくすため、実技指導、講演会、自転車点検を行う。 | 登校時に各危険箇所の交通指導や、原付の実技指導、免許所有者集会を定期的に行った。月に一度自転車点検の実施した。軽度の事故であったが原付事故が2件、自転車事故が5件あった。 | C | 交通安全・命を守る取り組みを進めてください。 | これまでの指導の徹底をはかり、自転車通学時の安全の意識を高める指導を行う。自転車の整備の徹底と二人乗りや、携帯使用をさせないように指導する。 |
| ⑤ 健康教育を推進する | 円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。 | 教育相談室を毎日開室する。“教育相談だより”を発行する。 | ほぼ毎日、教育相談室を開室した。教育相談だよりを2回発行した | A | 自分のために勉強しているという自覚ができるような教育を進 | 教育相談に関する情報の啓発を積極的におこなう。 |

| | | | | | | |
|-------------------|---|--|---|---|--|---|
| | 生徒自らが健康管理ができるように、継続的な保健指導を行う。 | 保健だより等で保健に関する啓発を行う。繰り返し保健室を利用する生徒の数の減少を図る。 | 保健だよりを8回発行した。アンケートで実態把握をおこない、文化祭での展示や保健統一ホームルーム活動を実施し、意識啓発をはかった。 | B | めてほしい。 自分の将来のために、なりたいたい自分に向けて勉強するという意欲や気持ちがポイントだと思う。 保護者の方から子どもの成長を喜ぶ話を聞くことがとてもうれしく思う。 大変と思うが、先生方も頑張ってもらいたい。 | 保健だよりやその他の掲示資料等で保健に関する啓発を迅速におこなっていく。 |
| | 食育の推進を図り、食に関する知識と食を選択する力を習得させる。 | 食育に関する講演会を実施する。アンケートを実施する。 | 食育講演会を1回実施。アンケート結果から文化祭で必要と思われることを展示した。 | B | | 食育カルタ等をホームルーム活動で実施し、地産地消の啓発等もおこなっていく。 |
| ⑥ 特別支援教育を推進する | 特別支援教育についての研修を充実させ、関係機関との連携を図り、効果的な支援を目指す | 特別支援教育についての校内職員研修会を実施する。支援のためのケース会議を行い職員全体の共通理解を図る。必要に応じて外部の関係機関と連携を取り、適切な支援を行う。 | 特別支援教育についての校内教職員研修会を3回実施した。特別支援教育推進委員会を2回おこなうとともに、個別対応を図った。教職員が生徒の実態把握ができるようにアンケート調査をおこなった。 | B | | 調査結果をふまえて、校内の特別支援体制を整える。教職員の知識サポートとなるような「支援だより」を発信する。 |
| ⑦ 学校いじめ防止の取組を進める。 | 学校いじめ防止基本方針を作成し、PTAの理解と協力を得て、取組を進める。 | 教育相談体制、未然防止のための取組、早期発見・早期対応に取組、年1回以上、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修を行う。 | 未然防止のため、7月と2月に学校生活やいじめについてのアンケートを実施。計画的に校内巡視を行い、生活状況の把握に努めた。保護者との連携や個人面談を適宜行い、いじめの早期発見ができた。 | B | いじめの問題も対応できていると感じている。 先生と生徒の距離が近くて良い状態であると思う。 先生の暖かい指導やクラスの良い雰囲気が大切と思う。 中学校の時に学校に行きにくかった生徒や課題の多い生徒も、一人一人に寄り添って指導し、社会へ出していくことを大切に続けてほしい。 | 校内研修により組織での対応の強化を図りたい。 |
| | ものづくりにおいて、実習や工業技術基礎で、機械や工具の片付けや清掃において、いじめに繋がるような特定の生徒だけで行うことがないようにする。 | 生徒と教員による、ものづくりのアンケート評価の平均が達成度3.5以上にする。 | 毎回の実習において公平に分担させた。 実習集合点呼時における生徒観察を行った。 | A | | 使う人の気持ちにたって設計することの重要性を常に指導する。生徒一人一人の特性を理解して、常に観察したり声かけを行い、いじめ等が疑われる表情の変化を見抜く。 |
| ⑧ 道徳教育の充実を図る。 | 全体計画・年間計画を作成し道徳教育の充実を図る。 | 特別活動課と社会科を中心に取組を進める。 | 概ね達成できた。 | B | | 年間計画の作成を通して、道徳教育の充実を図る。 |
| ⑨ ボランティア活動を推進する。 | ボランティア活動を通し地域や世代を超えた交流を行う。 | 生徒会だけでなく部活動を巻き込んだボランティア活動を3回実施する。 | 地域合同防災訓練で、生徒会役員が駐車場誘導係を担当した。また、野球部が8月の台風で被害を受けた加茂谷地区にボランティアに向かった。 | B | | 生徒会役員の多くが運動部に所属しており、時間的余裕がないのが現状。今後は運動部とともにボランティアの機会を作ってもらおう働きかける。 |
| 実践力の育成 | ①ものづくりの技術・技能の向上を図る。 教員の旋盤技術及び溶接技術向上のための校内研修会を実施する。校外の研修会や実技講習会へ積極的に参加する。 | 学校外の研修に積極的に参加する。 | ものづくりマイスター及び、テクノスクール教官による研修会を行った。溶接技術の研修会に科から2名が参加した。 | A | 工業には普通科にない良さがある。 地元就職して | 積極的参加を促す。 |

| | | | | | |
|---------------------|--|---|--|---|---|
| ②ものづくり技術を生かす。 | 実習等の成果を基に、ものづくりコンテストに参加して上位の成績を残す。 | 旋盤作業、電気工事競技部門、測量競技部門、ロボット競技など高校生ものづくりコンテストに出場する。 | 四国溶接競技大会参加、ロボット競技県大会3位旋盤作業県大会2位、電気工事競技県大会奨励賞、測量競技県大会3位 | B 残れる良さを大切にしてほしい。 数学が苦手な生徒が多い。特に小中学校の内容からの学び直しを取り組んでほしい。 | ロボットの剛性を高める。外部指導者に依頼して競技力の向上を図る。練習して精度を上げる。 |
| ③安全作業教育を推進する。 | 実習を通して、自己や怪我にあわないよう生徒の安全に対する意識の高揚を図る。 | 実習前に服装の確認や作業手順・ルールを徹底する。安全の確保ができるように職員が実習場の点検、体制を整える。生徒による評価を実施する。 | 建設では、出席率90%以上で実習授業を休まなくなった。電気科では、生徒評価93%。実習中の事故による怪我等はなかった。機械科では、ほぼ全員が正しく着用できた。工作機械使用時の安全靴着用を促したが不十分であった。アーク溶接時の感電事故防止に取り組んだ。 | B 地域の小中学生の学習支援を阿南工業の生徒が手伝えることで、阿南工業の生徒が自信や学ぶ意欲を高めることに繋がるのではないだろうか。 | 建設では、さらに実習の出席率を上げる。電気科では、引き続き安全作業教育を徹底する。 機械科では、若干名の生徒が実習に相応しくない高価な靴を履いていたので改善させる。安全靴着用の徹底を図る。 |
| ④阿工版デュアルシステムの充実を図る。 | 2学年全員参加の短期インターンシップと3学年希望者が参加する長期インターンシップの充実を図る。事前指導、事後指導を充実させる。 | 成果発表会を実施し、受け入れ先企業や参加生徒のアンケート評価を行う。生徒の進路希望に応じた行き先を確保する。 | 短期インターンシップでは、ほぼ全員が希望する体験先を確保できた。機械科では、長期の参加生徒全員が満足した。電気では、生徒の満足度80%。 | A 先生方が、中学のことから教えて、考えるように力をつけてもらわないと、今年のような就職の良い結果は出ないと思う。 | 生徒の就労意欲を上げるために事前指導を行い、専門性を重視した体験先にするよう指導する。南部テクノスクールと連携し自動車工学などの知識や技術習得を図る。 |
| ⑤望ましい職業観・勤労観の育成を図る。 | 進路セミナーの実施により進路に対する意識の効用を図る。社会人講師の活用や企業見学・現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。 | 企業の人事担当者、卒業生を招く。卒業生・社会人講師を招いて進路セミナーや見学会を実施する。生徒アンケートによる評価を行う。 | 建設科職員全員が指導にあたり、1年生の建設現場見学会を実施することができた。 | B 来年度の就職に向けて今年のように良い結果が出ると今の2年生が思っていると大変になる。 | 次年度も建設現場見学会を実施したい。 |
| ⑥起業家を育成する。 | 模擬株式会社「鉄男」の活動を通して起業家精神の涵養と、ものづくり力の向上を図る。 | ビジネスプラン通りに実施できたか達成度を評価する。また、売上金で車いす寄贈ボランティアも行う。 | 「鉄男」社員全員が満足のいくアンケート結果であった。また、車椅子ボランティアも実施できた。 | A 体験を通して学ぶことで、教育をつけて就職させることが大切。 | 「鉄男」ブランドの商標登録など知財権を絡めて実施する。 |
| ⑦資格取得を推進する。 | 資格に積極的にチャレンジするよう指導し合格率をあげる。可能な限り、資格取得に向けた補習を実施する。 様々な資格取得にチャレンジするよう指導する。資格・検定の取得に向けた教材づくりを行う。 | 工業の基礎技能である計算技術検定、情報技術検定3級について、一斉指導、個別指導、補習を実施し合格をめざす。 2級土木施工管理技術検定学科試験用教材及び2級建設施工管理技術検定学科試験用教材を作成する。昨年 | 機械科では、早い時期から実技指導を行い全員が合格した。ボイラー技士試験を受験する生徒がいなかった。電気科では、補習参加率50%程度。2種合格率63%、危険物乙4は20%建設科では、建設系の技能講習の受験率は少し下がったが、2級土木施工管理技術検定試験の | 機械 B 電気 C 建設 A 体験を通して学ぶことで、教育をつけて就職させることが大切。一回で就職を決めるためには、ある程度教育をつけることが大事だ。 資格取得に向けての補習始動も | 機械科では、2級技能士へチャレンジさせるようにする。ボイラー取り扱い講にとどまらず、ボイラー技士試験受験を喚起する。電気科では、希望制補習は参加率が上がるようにアピールする。建設科では、学力は低い学年だったが、資格に対する意欲は高 |

| | | | | | | | |
|--------|------------------|--|--|---|---|--|--|
| | | | 度以上の合格者数，合格率を目指す。 | 受験者数は増加し，3級技能検定（とび）にも4名合格した。 | | 充実させて良い正課を継続してあげられるようお願いしたい。 | く，次年度も地道に指導を続けていく。 |
| | ⑧知的財産マインドの育成を図る。 | ものづくりにおいて常に知的財産権を意識させる。創意工夫に満ちた作品作りを心がけさせる。 | 生徒と教員による評価を実施する。 | 課題研究作品づくりにおいて知財意識の高揚を図った。 | B | | 知財権事業を実施する。 |
| 地域との交流 | ①地域貢献を推進する。 | 地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献，学校間連携を図る取組を実施する。また，環境・防災関連製品を製作し地域へ応える。防災訓練の実施（地域の方々との防災訓練の実施） | 連携先から聞き取りアンケート調査により70%以上の満足度を得る。地域・関係機関とのスムーズな連携を図る。 | 機械科では，依頼を受けて，防球ネット枠を製作し，高い満足度を得た。家具転倒防止金具を200個製作し防災訓練で配布し高い評価を得た。 | B | 取組を継続してください。地域との連携としてホームページは関心がないと見ないが興味があれば見ると思う。コンテンツの内容を考えるなど，どうしたら興味を持てるか考えて努力してほしい。 | ものづくりで地域貢献活動を推進する。お年寄りの方への自宅での家具転倒防止金具の取り付けを行う。地域合同防災訓練の継続実施。 |
| | ②産学連携を推進する。 | 地域社会や企業と連携したものづくりや，ものづくり技術・技能の継承を行う。地域企業の講師を招聘し実技指導を行う。短期・長期インターンシップを実施する。 | 教員評価や連携先からの評価と，実施後の生徒アンケートを行う。6割以上生徒の希望通りの行き先を確保する。 | アルミ材アルゴン溶接技術の習得及び学んだ技術を活用し，アルミ製軽量手押し車を製作した。保育所へ寄贈し高い評価を得た。溶接や鍛造技術の向上を図る実技指導においては高い評価を得た。参加者全員が満足した。 | A | | 産学官連携による地域産業の担い手育成を推進する。地域のものづくり力を活用し技術の向上を図る。南部テクノスクールと連携して自動車工学や原動機の知識や技術の習得を図る。専門性を重視した体験先を希望するよう指導する |